家庭系ごみ処理の有料化の検討

有料化とは…
ごみ袋の製作等に係る費用に加え、**ごみの減量化・リサイクルの推進・ごみの適正処理などの取組に係る費用の一部を市民から負担していただく仕組み**　のこと。

鶴岡市の現状

市民はごみ袋の製作費用のみを負担している。

〈参考〉令和7年度
ごみ処理費用

総　額	14億700万円
市民一人当たりの年間処理費	12,229円

種　類	金　額
収集運搬費	4億4,700万円
焼却処理費	4億7,700万円
資源化処理費	2億5,400万円
最終処分費	1億　900万円
その他処理費	1億2,000万円

県内他市町村の状況

●庄内を除く全ての市町村で有料化を実施している。
※山形市：収集～最終処分までの費用の18%を想定（有料化当初）＊平成22年～有料化
※置賜広域行政事務組合：焼却（資源ごみは分別）～最終処分までの費用の60%を想定（有料化当初）＊平成11年～有料化

家庭系ごみ処理の有料化により見込まれる効果

①ごみの減量
②再利用の促進
③排出量に応じた市民負担の公平化
④住民の意識改革を図る

有料化に向けての課題

・有料化するごみの範囲の選定
・市民の負担額・負担割合の検討
・有料化に伴い発生する問題への対策
（分別違反・不法投棄・負担軽減等）
・廃棄物減量等推進審議会への諮問
・有料化に対する市民の理解
（懇談会・説明会の開催）

〈方向性〉
ごみ処理等の広域化の検討項目とし、２市３町で連携して課題整理に取り組むとともに「行財政専門委員会」の意見を踏まえながら有料化について市民の理解を得られるよう検討を進める。